

愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集（研究者情報）

氏名	山藤 篤	専 攻	食料生産学専攻
		コ ー ス	地域イノベーションコース
職名	助教	専門分野	農業経済学
メールアドレス	yamafuji.atsushi.qx@ehime-u.ac.jp	その他連絡先	
研究課題	青果物流通の多元化 農産物直売所・地域活性化		
キーワード	青果物流通・加工業務用野菜・農産物直売所		

研究内容：

① 青果物流通の多元化

近年、生活様式の変化によって、食生活も大きく変化している。中食・外食の規模が増大し続ける一方、家庭で調理し消費するといった内食は減少を辿っている。食の外部化率についてみると 1970 年に 28.4%であったが、徐々に増加し 1990 年には 40%を超え 2010 年には 44.9%を占めるようにあった。また景気後退を契機として、外食産業の規模は一定水準を辿る一方、調理食品といった中食の規模は、なお一貫して増加傾向にある。このような食の外部化と平行して、青果物の流通構造もそれに応じて、多元化が進展している。こうした流通の多元化が進展する下での青果物の販売と生産対応を明らかにすることは、産地再構築への重要なキーワードといえる。

② 農産物直売所・地域活性化

わが国の中山間地域農業は、生産農家の高齢化や兼業化にともなう産地基盤の弱体化が懸念され、産地再構築の方向を見出すことがきわめて重要な課題となっている。とりわけ高齢・零細生産者や兼業農家の農協共販もしくは加工・業務用等の規格に即した生産が困難になっており、その販売先の獲得や新たな協同による生産体制の構築が期待されている。このため農産物の直売所を軸として展開している動向について研究することは、地域活性化の重要なキーワードといえる。

【著書】

1. 山藤篤. 農産物流通と組織における情報化導入の効果に関する経済・経営的研究. 全国農業協同組合中央会編. 協同組合奨励研究報告: 第三十四輯. 143-169. (株)家の光出版総合サービス, 東京. (2009)
2. 板橋衛・山藤篤. 果樹・野菜産地における農民的共同販売の展開と農協の課題—愛媛県下の事例から—. 農業・農協問題研究所報: 第 52 号. 35-48. 農業・農協問題研究, 東京. (2013)
3. 山藤篤・小田清隆. 第 17 章西予市「百姓百品」と高齢者の野菜づくり. 村田武編, 愛媛発・農林漁業と地域の再構築: 筑波書房, 東京.

【学術論文】

1. 山藤 篤. 農業生産法人における加工・業務用野菜の契約取引をめぐる現段階的特徴. 農業問題研究, 第 44 巻・第 1 号(通巻第 70 号): 42-54. (2012)
2. 松岡淳・山藤篤・坂本文造. 労働力構造脆弱化の進行下における果樹園地流動化の特徴—愛媛県における「担い手不足地域」を事例として—. 農林業問題研究, 第 49 巻・第 1 号: 13-24. (2013)
3. 松岡淳・山藤篤・隅田信二郎. 環境保全型柑橘作における無農薬栽培の成立可能性. 農林業問題研究, 第 49 巻・第 1 号: 59-64. (2013)

提供可能な資源・技術・その他

プロジェクト研究希望テーマ

・青果物流通、農産物直売所

